

三鷹市立中原小学校 令和5年度【外国語】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年			
第2学年			
第3学年	<p>【成果】 ○単元をまたいで単語の練習を繰り返し行い、どの児童もコミュニケーションをとることができるようになった。 ○ALTと1対1で話す機会を設け、言い回しを直接教えてもらったり、英語で話すことへの抵抗感を減らしたりできるようにした。</p> <p>【課題】 ○言い方が分からない時の問い方を定着させていない。</p>	<p>【現状】 ○英語で自分の名前や様々な自分の状態を伝えられる。 ○歌やチャントをもとに、ALTや友達同士で自分の名前や今の状態、好きなものを伝え合うことができる。</p> <p>【課題】 ①伝え合う活動でジェスチャーや表情など言葉以外のものも工夫して使用し、分かりやすく伝えること。 ②言い方が分からない時の問い方を身に付けられていないので、日本語で話してしまっている。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ○英語を使って簡単なコミュニケーションや、ゲームを学習の中で多く扱ったことで主体的に英語を使って表現できる児童が増えた。 ○外国語が得意な児童には見本や、苦手な児童のフォロー、ALTとの会話の時間を設け学習意欲を高めている</p> <p>【課題】 「書く」活動をどこまで小学校段階で取り組ませるか。鷹南学園として共通理解を図り取り組んでいきたい。</p>	<p>【現状】 ○単語や日常会話の練習を繰り返し発音したり、単元で必要な英単語を取り入れたゲームなどを授業前の導入として実施している。 ○映像を見て、そこから分かることを書き出し、文化の違いを学んできている。 ○習い事として外国語に親しんでいる児童が増加傾向にある。授業をリードしてくれる反面、彼らを中心とした授業になっている。</p> <p>【課題】 分からない単語や会話が出たときに粘り強く理解したり、伝えたりしようとする態度に課題がある。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ・リーダーズトークを最初に入れることで、基本的な会話に慣れ親しむことができた。</p> <p>【課題】 ・単語や表現の習熟に大きな差があり、一斉授業の中で外国語が得意な児童中心に進んでいく場面が多く、意欲の低下につながっている。</p>	<p>【現状】 ○チャントなどを通して、児童が発話する時間を十分に確保している。 ○ALTが発話したアルファベットを指で押さえるポイントゲームを進めている。 ○ALTが発話した単語を指で押さえるポイントゲームを進めている。</p> <p>【課題】 ①アルファベットを四線に正しく書くことに課題がある。 ②既習事項を使いこなすことに課題がある。 ③外国語を話す必然性を児童が感じる機会が少ない。</p>	
第6学年	<p>【成果】 ○評価の観点を示すことで、学びに対して粘り強さと調整力が可視化され、主体的に英語に取り組む児童が増えた。 ○ALTと1対1で話す機会を単元ごとに設けることで伝えたい力を伸ばすことができた。</p> <p>【課題】 ○アルファベットの小文字を書く際に、4線を活用しての定着が必要である。</p>	<p>【現状】 ○ALTによる単語や会話の練習 ○ALTによるUnitの学習内容に関するゲーム ○PCの動画を使ったリスニング ○メインセンテンスを使ったコミュニケーションやワークシートへの記述</p> <p>【課題】 ①日常生活やコミュニケーションをすることの必要性を感じながらの主体的に学ぶ態度を育成すること。 ②コミュニケーションを通して知識・技能を確実に身に付けさせること。 ③アルファベットを四線に正しく書くこと。</p>	